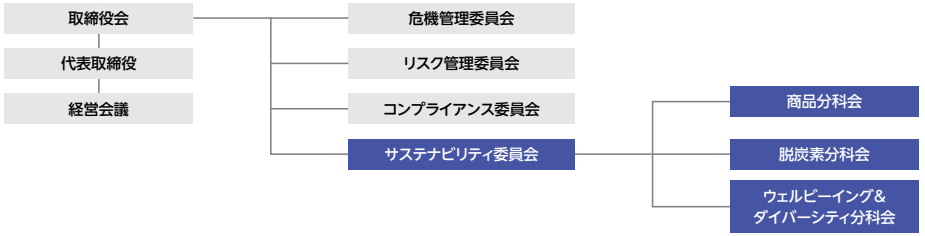
サステナビリティビジョン2030 2023年度取組み状況

全社的な取組み

2023年度はコロナ禍が明けたことで社会・経済活動が活発になったものの、世界情勢の不安定さや、気候変動・地球温暖化が顕在化した異常気象や自然災害の発生など、社会・経済・環境と各分野において多くの課題が顕著となりました。また、「SDGs」の認知は約9割※1、購入時に環境・サステナビリティへの配慮を参考にする生活者は6割超※2といった調査結果も出るなど、さらに持続可能な世の中の実現に対する生活者の皆さまの意識向上が見られた1年となりました。
その中において当社は、お客様とともに“よりたのしいくらし”を創造・共有していくため、様々な社会・環境課題に取組み、持続可能な未来の実現に貢献しながら企業としての成長を目指すため、当社コミットメント「サステナビリティビジョン 2030」の実現を目指し、様々な取組みを推進いたしました(※1: 2023年2月実施、電通「第6回『SDGsに関する生活者調査』」、※2 : 2023年12月実施、電通「第13回『カーボンニュートラルに関する生活者調査』」、より)。

• 当社コーポレートガバナンス体制の一部としてのサステナビリティ委員会

ビジョン実現に向けた推進体制として、社内にサステナビリティ委員会を設置しています。同委員会は代表取締役をはじめ役員を含むメンバーで構成され、マテリアリティに基づく重点領域を中心として、サステナビリティに関する全体計画の立案、進捗状況の把握、達成状況の評価等を行っています。また、今年度は同委員会に設置された分科会体制を見直して、商品・脱炭素・ダイバーシティ&ウェルビーイングの3つとし、それぞれの分野において様々な取組みを推進しています。



•「サステナビリティビジョン2030」の商品に関するコミットメントの一部を改訂

「サステナビリティビジョン2030」の3つの重点領域「健やかさ」「多様性」「自然環境」においては、それぞれ設定した具体的な目標計画(定量・定性)のもと取組みを推進してきました。しかしながらビジョン策定から一定期間が経過したことを踏まえ、2023年6月に実施したお客様アンケートのご意見等も参考にしながら内容について改めて見直しを図り、商品に関する目標計画の一部改訂を行いました(最新のコミットメントと2023年度進捗状況は本レポートP8)。

•「森をつくる。」「国産材を届ける。」森に寄り添う2つの取組み

国土の約7割を森林が占める日本では、木材は家具や建物など様々なものに使われており、日本人のライフスタイルには欠かすことのできない大事な資源です。さらにCO2吸収による地球温暖化防止や、水源かん養(森林が水資源を蓄え、育み、守っている働き)といった、自然環境保全の上でも重要な役割を果たしています。当社では、植林による「森をつくる。」(取組み紹介は本レポートP18)、そして国産材商品の企画・販売「国産材を届ける。」(事例紹介は本レポートP17)という2つの活動で、すこやかな森を育むことに貢献しています。

「森をつくる。」「国産材を届ける。」私たちの2つのストーリー

• 産学連携や奨学生支援など、未来を担う若者を応援

2023年6月より、当社と長岡造形大学、取引先であるIKASAS DESIGNとの間で、地域とつながりながら持続可能なものづくりを実現するため、社会で即戦力として活躍できるプロダクトデザイナー人材育成の産学連携プロジェクトをスタートしました。また、2024年2月には、京王電鉄、京王不動産とともに奨学金を受給する学生の経済的課題解決貢献を目的に、新品家具レンタルサービス「フレクト」の返却家具を無償提供するプロジェクトを開始。様々な形で未来を担う若者たちを応援しています。

長岡造形大学での産学連携プロジェクト

• 新入社員サステナビリティ研修など社内向けコミュニケーション推進

社内においてより一層、「SDGs」「サステナビリティ」や当社ビジョン等への理解向上を目指し、新入社員を対象としたサステナビリティコミュニケーションを考える研修プログラムをはじめ、ビジネスのヒントとするためのウェビナー・ワークショップ等を開催しました。その他、各種情報発信やe-ラーニングの実施など、サステナビリティに関する様々な社内コミュニケーションを推進しました。